



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ミーズ日本支社の日本人

はじめに

10

米系多国籍企業ミーズ社の日本支社には総勢200人を超える人々が働いている。内米国人駐在員が約50人ほどおり、残りの約150人ほどは現地採用の日本人スタッフである。ミーズ社は世界的なプレゼンスと名声がかなり高く、日本においても海外経験豊富な日本人が進んで就職希望するほどである。通常であれば、そのような海外経験が豊富で伝統的
日本企業には就職しながらない人々は、いわゆる日本人離れしており、外資系企業内にお
ける駐在員とのコミュニケーション等にはまったく苦勞がいらな
いと思いがちだが、実はそうではない。ここで紹介する例はいずれも海外に長く生活した経験を持ち、英語力は申し
分ない国際派日本人の話である。そんな彼らがいっ
たいな
ぜい
ろい
ろな問題に直面し、悩んでいるのであ
らうか。彼らはこれらの問題にどう取り組んでいけばよ
いのだろうか。以下、多国籍企業の海外子会社にお
ける派遣駐在員と現地スタッフとの間の諸々の
チャ
レン
ジを、4つの実話を通して日本人スタッフの視点から考
える。

15

20

実話1：ミーズ日本支社への人員削減要求

25

鎌田良平はミシガン大学のMBAを取得後、大手外資系コンサルティング会社勤務を経て昨年よりミーズ社の日本支社に現地採用となった。その職歴を高く買われ、彼はミーズ社に来てからまもなく、当社の財務・管理部門のトップとなった。ある時米国本社から鎌田のところ
に一通のメールが届いた。その内容は、コスト削減のため日本支社における人員削減を
求めるものであった。実はそのような要求は、彼の前任者マイク・ギャラガー時代から
何度かなされ、駐在員マネジャーであったマイクは過去5年ほどの間、迷わずその都
度人員削減を行ってきた。日本人スタッフの間では近年そのことがよく話題となり、
不安がつ
のっ
ていた。マイクの後任である鎌田は、このまま人員削減を推進することに、

30